



学区空き家対策で研究報告

日吉台新聞

HIYOSHIDAI

発行

日吉台学区自治連合会
日吉台学区
まちづくり協議会

発行責任者
林 堅太郎

編集責任者
村澤 真保呂

日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

第1回住まい活動助成事業研究交流会

日吉台の事業、参加者らの関心呼ぶ

東京・御茶ノ水



日吉台の空き家対策を発表する濱崎さん

今年度、学区空き家対策委員会が助成を受けた一般財団法人「ハウジングアンドコミュニティ財団」が行う「第1回住まい活動助成事業研究交流会」が7月19日、東京都千代田区神田駿河台4御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで開催。濱崎博・学区空き家対策委員長、野々口義信・学区自治連合会長

が上京、出席した。同財団は、1992年の財団設立以来、豊かな環境の創造に貢献することを目的に市民団体やNPO法人などに対し延べ378件の助成をしている。昨年「住まい・コミュニティづくり助成事業」のなかに新たに「住まい活動助成部門」を新設、人口減少や少子高齢化社会を背景にした多様

ずっと住み続けたいまちめざし

市民センターでワークショップ開催



ワークショップで、発表する参加者たち

ずっと住み続けたい日吉台をめざし学区空き家対策委員会は7月22日、日吉台市民センターで、ワークショップ「ずっと・もっと」懇談会を開催、

日吉台は、少子高齢化が進行、今後空き家のさらなる増加が懸念されている。あこがれのニュータウンだった日吉台がこの先も「ずっと・もっと住み続けたいまち」となるよう5つの基本方針の具現化が必要となっており、住民みんなの意見を聞く場として開催した。ワークショップは、学区の空き家対策の調査、

な住宅問題に取り組む活動にも助成を行うことになり、30年度に日吉台学区空き家対策委が「空き家を資産として活用する団塊世代によるまちづくり活動」をテーマに応募、

取り組みが認められ助成を受けることになった。第1回住まい活動助成事業研究交流会には、29年度で助成を受けた5団体の活動成果報告、30年度で助成を受けている日

吉台学区や「現代版の木賃文化、木賃アパートの活用」を掲げる東京都豊島区のかみいけ木賃文化ネットワークや「路地裏空間・空き家活用による交流人口増加、地域の賑わい創出」を行う福岡県北九州市の門司路地組合など9件の活動報告が行われ、会場に詰めかけた学会、行政、まちづくり関係者ら約150人らと意見交換した。

住まいへの関心高く

リフォームの注意点など勉強会

学区空き家対策委員会主催の豊かな住まいづくりに向けての第1回勉強会が7月3日、日吉台市民センターで行われ、約30人が参加した。

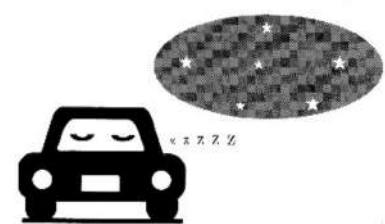


住まいへの関心が高く熱心に耳を傾ける勉強会の参加者

研究で助言を得た都市環境研究所三重事務所の協力を受け行われた。会場の市民センター大会議室フロアに巨大な日吉台学区航空写真が置かれ参加者らは、3班に分かれ、「日吉台・ものがたりづくり」をテーマに、子どもたちの想い出、今感じていること、将来こうなっていきたいことなど、航空写真の日吉台をウォッチングしながら話しあった。

この勉強会は、一般財団法人「ハウジングアンドコミュニティ財団」から受けた助成金を受け、計画された事業で、「今の家をより住みやすく、かつ資産価値を上げよう」がテーマ。講師は、4丁目西在住で1級建築施工管理技士の栗津広之さんと株式会社、工藤建築環境設計室の1級建築士、工藤晃久さん。栗津さんからはリフォームの実際と注意点、工藤さんからは特に住居における「熱」の影響について講演。講演後のフリートークキングでは多くの質問が寄せられ、住まいへの関心の高さを示していた。

やめよう路上駐車



緊急車両の通行の妨げ、消火栓等の使用の邪魔になることがあります。見通しが悪くなり、事故を誘発する危険があります。

日吉台学区 自治連合会

不審者対応防犯訓練

先生らがサスマタなどを使い防御

日吉台小

日吉台小学校（熊川芳彦校長）で7月4日、不審者対応と避難訓練を兼ねた防犯教室が開かれた。全校児童123人と教職員16人が参加、大津市子ども安全リーダー連絡協議会、日吉台学区自

主防犯推進会、大津警察署生活安全課、坂本交番の協力のもと、不審者が北校舎体育館側出入口から侵入し、西階段を上がろうとしているという想定。体育館で授業中の教諭

が不審者に気づき、訓練開始。インタフォンで職員室へ連絡すると、熊川校長が警察への通報と校内放送を指示、先生たちが協力して教室内に犯人が侵入しないよう校舎や廊下扉を施錠し、犯人を遮断する一方、別の職員がサスマタで侵入者と対峙する間に、駆けつけた警察官が身柄を確保した。

訓練後、体育館に避難した子どもたちを対象に寸劇による防犯教室を開催。不審者と出会った時の対処の仕方と演技による身の守り方を指導。「誘拐に合わないための5つの約束」を全員で唱和して訓練を終えた。



サスマタで不審者を確保しようとする日吉台小の先生ら

組み回覧配布見直したい

市・各学区に意見を聴く

自治会活動の負担軽減策を検討している市自治協働課は、軽減策の一つとして、行政側が市民に配布する組回覧資料配布

とポスター掲示の見直しを決め、7月開いた市自治連合会定例会で、検討案を示し、市民の意見取りまとめを自治連側に依

頼した。

大津市の自治会加入率は、年々低下、その要因の一つに「役の負担」が

あげられている。自治会活動の負担軽減を図るこ

とを目的に昨年から今年春にかけ実施した自治会長を対象にした市のアンケートで、負担の重いものを尋ねたところ、

6割の会長が「市主催のイベントや会議への協力動員」を挙げトップ。組回覧の配布やポスター掲

住宅内に巨大スズメバチの巣



日吉台3丁目の住宅で、直径40センチを超える巨大スズメバチの巣が見つかった。写真。

スズメバチの巣があつたのは、日吉台3丁目の民家の屋根裏。住民が屋根裏にイタチらしい小動物が住み着いているのに気づき、自主防犯推進会の山下英子会長に相談、副会長の岸本善春さんがイタチ退治に屋根裏に入り、巨大スズメバチの巣をみつけ、処理した。

示依頼もかなりの割合で負担が重いと答える会長が多かった。

組回覧やポスター掲示依頼は、負担は重いが、

7割の人が「内容によっては必要」と答えており、市では組回覧、ポスター掲示の内容を精査することとで負担を抑えることにした。

内容について調べたところ、「ごみ収集」「防災」「福祉」の分野で必要との比率が高く市の原

琵琶湖市民清掃実施

参加者大幅に増加



琵琶湖市民清掃で汗を流す住民たち

日吉台学区の琵琶湖市民清掃が7月15日、学区全域で行われた。大津市の琵琶湖を美しくする運動実践本部主催の琵琶湖岸一斉市民清掃作業で、当初7月8日に予定されたが、西日本豪雨の影響で1週間延期された。

この日の一斉清掃は、朝から夏空が広がり、市の実践本部から熱中症対策の注意情報がよせられた。日吉台学区の清掃には昨年に比べ約100人強多い870人が参加。カンカン照りのなか、参加者らは、草刈ガマや竹ぼうき、熊手など思い思いの清掃用具を手手に地区の道路や斜面、側溝などの清掃作業に汗を流した。

今年の運動会は、10月7日開催

平成30年度第34回学区民大運動会の事前事務局会議が6月30日開催、今年度の開催日程、競技プログラムなどについて協議した。開催日は10月7日の日曜日、日吉台小学校グラウンドで。雨天の場合は翌8日に順延する。競技プログラムについては、前年度プログラム

の店舗、企業などに協力を求めることを確認した。

柱となる協賛金については、例年並みの16万円を予定、住宅内や周辺

案として、①依頼する組回覧、ポスター掲示については「ごみ収集」「防災」「福祉」を基本とする。②この分野以外で市民生活に影響がある案件については、配布対象とする、とした。

市民に意見求めるため市は、市は過去3年間で依頼した回覧文書、ポスター掲示一覧表を市自治連を通じて各学区に配布した。市は市民の意見を聞いたうえ、8月開催の市

自治連合会であらためて負担軽減案を報告することとしている。この問いかけに学区自治連合会は、7月の定例会で扱いを協議。日吉台学区として配布を担当する各丁役員や組長らの負担軽減を図る必要性を訴えるとともに、市民へ流す情報の重要性も強調する意見を述べることにした。

お知らせ

8月号の漫画、ひよちゃん、休載しました。